

「お米とわたし」

飯野小学校 五年 山田 優希奈

私の家は、先祖代々お米を作っています。

今は私のお父さんが、会社勤めをしながらお

米を作っています。お休みの日は、朝から暗

くなるまで田んぼへ行っています。一年の中

でも4月にやる種まき、5月にやる田植え、

8月の後半位から始まる稲刈りの時はとても

いそがしく大変そうですね。私も種まきはお手

伝い出来るので、お母さんとお姉ちゃんとお

兄ちゃんとお父さんのお手伝いをしま

す。私の役目は、種をまく前に箱に土を入れ

て、種まきの準備をします。その後、土をよ

れた箱に「今年もおいしいお米が沢山出来る

といいな」と思いながら種をまきます。全部

で二百箱位やるので少しつかれるけど、お手

伝いをするとお父さんがよろこんでくれるの

で、私もうれしい気持ちになつて、五才位か

ら長ぐつとエプロンをつけて毎年お手伝いを

していただきます。今年の種まきの時には、少し小

さくなく、たエフォロンをつけている私を見てお
父さん加「大きくなつたね、いつもありかど
う、今まどか、とコツじかりを作、てきたけ
ど、今年は千葉のお米つぶすけも一しょに作
ることにしたよ」と教えてくれました。つぶ
すけは昨年近所の人から頂いて食べたが、コシ
じかりよりも粒が大きかつたです。お父さん
「秋作、たお米は家族皆好きです。私のお兄
ちゃん、毎日二杯目はご飯だけで食べてい
ます。皆、夏休みが終わるころ食べれる新米を
楽しみにしてきます。毎年一番にしたらお米は
お父さんが研いで、水加減を少なめにして出
来た、ピカピカの「ご飯を笑顔い、ほいでよそ
つてくれます。とれたばかりのピカピカの「
飯を食べるのは、おが家の楽しみの一つで家
族みんなも笑顔になります。でも今は、農家
の人手不足と高れい化等の問題もあつて、今
年はお父さんも田んぼの枚数が増えついても
よりも忙しそうです。ただ、この夏休みも
海やプールやえい画を見に連れて行ってくれ

たり、算数でわからない所があると教えたく
 れます。そんなお父さんをすごくいなと思いき
 ず。お母さんも家のことをはかばかしくしてくれて
 毎日おいしいご飯を作ってくれます。お父さ
 んとお母さんの姿を見て、私もかばろうと思
 います。ある日私はお父さんに、なぜそん
 なに忙しい思いをしてくまでお米を作るのか聞
 いてみました。それならお父さんはこう言い
 ました。「使命感かな。先祖代々お米を作っ
 ているからね。あとや、やはり自分が作ってお
 米を、おいしいって皆が食べてくれるのがう
 れしいからかな」と少しほこらしくに言う顔
 を見て、お米作りは大変そうだけどお父さん
 はお米を作るのが好きなんだなと私は思いま
 した。そんなお父さんの顔を見て、これから
 もお手伝いをしてくゆこうと思いました。お米
 は、生きていく上で欠かすことの出来ない大
 切な食べ物ですが、お家が、このお父さん
 さんが作って、お米は、家族をつなぐ物であり、
 家族みんなの元気な源だと私は思いました。